

「保健体育」（体育）学習指導案

1. 日時 令和〇年〇月〇日（〇）
2. 場所 体育館
3. 学部・学年・組 中学部 第2・3学年
4. 単元（題材）名 「MYサッカー ～自分の得意な方法で、自分の力で、自分のペースで～」
5. 単元（題材）目標（C）

- ・ボールを自分の力で操作し、自分の得意な方法でパスやシュートをすることができる。（知・技）
- ・活動方法を選択したり、気持ちを表情や声、身体で表現したりすることができる。（思・判・表）
- ・活動を通して仲間を意識し、何度も挑戦して粘り強く取り組むことができる。（学・人）

6. 生徒観 略

7. 教材観

「サッカー」の特性として、仲間と協力してボールをパスで繋いでゴールに向かってシュートするというわかりやすさがある。ボールを蹴る・ヘディングをするなど多様なパス操作が可能であり、肢体不自由の生徒にとっても自分の得意な方法で参加しやすい競技である。また、パスやシュートといった動作を通して、目的を持った操作や仲間との協力が自然に生まれるため、単元目標である「自分の力でボールを操作する」「仲間と協力して運動する」ことの達成に有効である。

本単元では、生徒を視覚優位と聴覚優位の2つのグループに分け、それぞれの実態にあった工夫をする。具体的には、感覚特性（聴覚、視覚優位・視覚障がい）を持つ生徒がいるため、視覚優位のチームにはゴールの周りに光るライトをつけて、棒スイッチと紐を連動させ、ボールがサッカーゴールを通るとサッカーゴールが光る仕掛けを工夫する。一方、聴覚優位のチームには外部入力スイッチと電子テレビを接続し、ボールがサッカーゴールを通った時に、応援している仲間が外部入力スイッチを押すことで「ゴール!」という言葉と音楽が流れる工夫をする。また、この単元では、パスを繋いでチームでゴールできた達成感を感じてもらいたい為、ゴールキーパーを配置しない。

8. 指導観

本校中学部は1時限40分間のため、場面展開や装具の移動が多くなると活動時間が少なくなってしまうことがある。また、医療的ケアが必要な生徒も在籍しているため、授業内容も考慮しながら設定する必要がある。そのため、最初の導入はわかりやすく簡潔に説明し、場面転換を少なくしてプレゼンテーションソフトや絵カードなどの視覚教材を使用して生徒が活動の見通しをもてるように工夫する。それと共に、聴覚優位の生徒に対しては、MTの説明の他に、STが近くでゆっくりとした口調で次の活動内容を具体的に説明したり、言葉かけをしながら一緒に活動したりといった立ても行うようにする。

また、授業の見通しや授業に対する期待感、モチベーションを上げることでできるように、「始まり」と「終わり」を明確にする。体育館の入り口にサッカーの試合の入場をイメージした花道をつくり、生徒が

好きな音楽を流すことで「始まり」に気付くきっかけを作ることができる。また、帰りも退場時に違う音楽を流し、「終わり」に気付くきっかけをつくる。

最後に、活動時に待機している生徒はそれぞれの実態に応じた方法で仲間を応援する。そうすることで、単元目標の「仲間を意識する」「気持ちを表情や声、身体で表現する」にも繋がっていくと考える。1学期の「バスケットボール」では、「サッカー」と同様にパスとシュートの技能に取り組んだ。その活動の中で4グループに分け、それぞれのグループに担当STを配置してグループごとに生徒の実態把握、支援の手立て、評価してもらった。今回はその情報を元に、個々に応じた活動方法を計画している。生徒が自分の力でできたという達成感や身体を動かす楽しさ、いつもの日常生活ではない感覚刺激を感じてほしいと考える。

9. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①活動内容に気付くことができる。 ②自分の力で蹴ったり、ボールを押し出したりしてパスやシュートができる。	①課題に対して教員と一緒に活動方法を選択することができる。 ②気持ちを表情や声、身体で表現することができる。	①仲間を意識しながら意欲的に取り組もうとしている。 ②何度も諦めずに挑戦しようとしている。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画（全6時間、本時は第5時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
1	1・2	<ul style="list-style-type: none"> サッカーを知る サッカーボールに触れる 「Myサッカー」を説明 ペアでの簡易ゲーム 	<ul style="list-style-type: none"> サッカーの紹介動画を見る。 実際にサッカーボールを触って硬さや大きさを感ずる。 実際に様々な投げ方を披露する。 ボールを触ったり、蹴ったりする。 簡易的なミニゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画を流す時は、流す前に言葉かけをして再生する。 ボールを触る時に、言葉かけをしてから触ってもらうようにする。 蹴ったり、投げたり自分の得意な方法で行い、自分なりの頑張りで行う大切さや1人ではできない仲間の大切さを伝える。 サッカーボールと鈴が入っているボールを使用し、生徒に合ったボールを使用する。 自分が活動する時のイメージが持てるように活動方法を何個か提示する。 活動を説明する時は、絵カードやプレゼンテーションソフトで視覚的にわかりやすく提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> A-1 (行動観察) B-1 (行動観察) C-1 (行動観察)

	3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・パス練習 ・シュート練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・2人1組のペアになってパスを行う。 ・サークルになってボールを繋ぐ。 ・2種類のゴールを使用してシュートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に合わせたペアに分ける。 ・実際に活動の様子を見ながら活動内容を変更していく。(2人1組～サークル) ・ボールや目標物といった注目するポイントを言葉かけしたり、一緒に触ったりして伝える。 ・視覚優位と聴覚優位の2チームに分けて、それぞれに設定したゴールを使用する。 	A-2 (行動観察) B-2 (行動観察) C-2 (行動観察)
2	5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> ・パスをつないでからのシュートゲーム ・応援の仕方を説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールに向けてシュートをしたり、目標物を狙ったりする。 ・グループに分かれて1つのボールを繋げてシュートをする。 ・鈴や外部入力スイッチといった道具を使用し、仲間を応援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボールや目標物といった注目する所を言葉かけしながら行う。 ・待機している生徒がそれぞれの方法で応援できるような教材を使用する。 	A-2 (行動観察) B-2 (行動観察) C-1 (行動観察)

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・仲間と協力してボールを繋いで、目標物へシュートすることができる。(知・技)
- ・表情や声、身体で仲間を応援することができる。(思・判・表)
- ・活動に対して諦めずに取り組むことができる。(学・人)

(2) 本時の評価規準

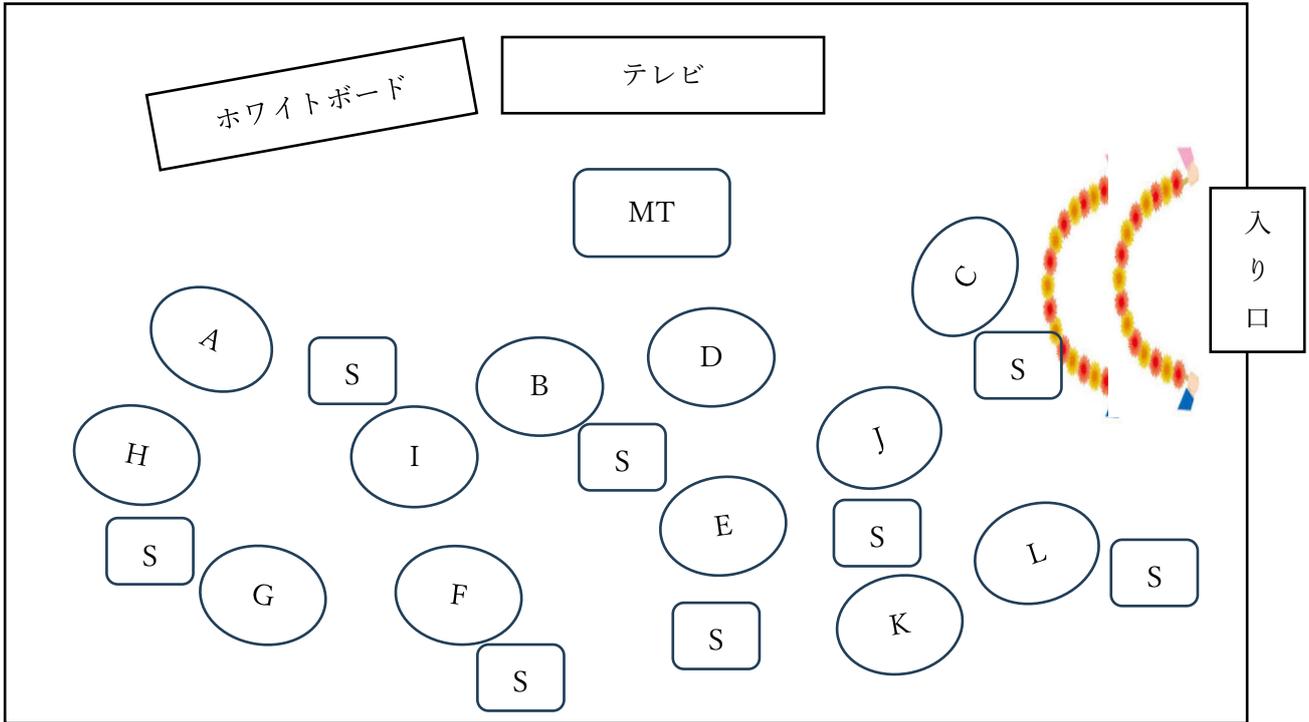
- ・自分なりの方法でパスやシュートをすることができる。(A-2)
- ・気持ちを声や表情で表現することができる。(B-2)
- ・仲間を応援したり、協力したりして仲間を意識しながら活動に取り組もうとしている。

(C-1)

<p>5分</p> <p>ま と め</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに整列する ・おわりの挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行器に乗っている生徒は座位保持いすに移乗する。 ・本人または一緒に活動したS Tが頑張った点やよかった点を発表する。 ・授業のおわりがわかるように挨拶の動作を生徒と一緒にを行う。 	
--------------------------------	--	---	--

(6) 教室配置等（正面を上にして、生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

・説明時



・活動時

